



【高校生が受けたい社会科授業】

開催日時：2021年3月7日（日）14：00～15：30

参加者：41名（高校生8名・その他33名）

ファシリテーター・進行：別木萌果さん（岡山大学大学院修士1年）
齊藤仁一郎さん（東海大学）

スタディ・スタヂオ Online Vol.8 では、学びの主役である高校生から「自分が受けてみたいと思う授業」について話してもらい、学び手に意義のある社会科やシティズンシップ教育の可能性を模索しました。まず最初の高校生への質問は、「いま興味のある社会課題とは？」から。参加した高校生からは、若者の低投票率、性教育、性的マイノリティを取り巻く問題、人種差別や在日コリアン差別、ジェンダー平等の実現、エネルギー・環境問題などが挙げられました。また留学経験のある高校生からは、「日本の学校教育全般、特に校則のあり方に疑問を持った」という意見も出ました。政治や選挙に関わる授業についての話題では、「選挙についての知識がなく、授業でのディスカッションがいまいち盛り上がりなかった」という意見も。海外の学校のように、みんな社会や政治について自分の意見を持っており、政治について自由に話せる環境になってほしい、ペーパーテストで知識を詰め込むのではなく自分がどう思うかが重視される学びにシフトするといいのに、という声もありました。また先生が政治的事象を授業のなかで取り上げること、政治的な立場をオープンにすることについても、高校生と先生方との間で熱い議論が交わされました。

また歴史教育に関する話題では、小学校から高校までの学びの連続性が必要であることや、「日本史」の目的、現代の社会問題や自分たちの生活に密接に関わっていることがわかると歴史を学ぶことの重要性を感じる、などのという意見が出ました。

最後は、ファシリテーターである齊藤先生から「何のために社会科を学びたいのか」という問いかけがありました。高校生からは「自分自身をより豊かにするため」「社会に参加しながら生きていくため」「視野を広げるため」「差別の歴史を繰り返さないため」「自分のプロジェクト（PBL）を進めるなかで、やっと必要な学びが見えてきた」等の意見が出ました。

これからも学び手の声を拾い、対話を通じてシティズンシップ教育の在り方を考えることの重要性を確認し、イベントは終了しました。

（主な企画運営：別木・齊藤・小田切・伊藤・浜田／報告担当：古野）

【高校生から出た意見（左：興味のある社会課題、右：受けたい社会科）】

